

社会教育研究部門

「教育と公共」研究部会（第49回）

日時：2023年7月14日（金）13：30～16：30

場所：オンライン

出席：上野正道・浅井幸子・狩野浩二・田嶋一・仲田康一・藤井佳世 各兼任研究員
山口和人所長・鈴木悦子・金沢千秋・川上智子（野間教育研究所事務局）

内容：（1）田嶋研究員：大田堯の「教育は公共事業」論（3）

1. 築島堯「米国に於ける科学教育思潮」（『教育』1942年11月号、岩波書店）を読む
 - ・「科学教育が普通教育に如何なる寄与をなし得るか」という関心からアメリカの科学教育のあり方からさぐる
 - ・科学教育は民主主義的社会秩序、デモクラティックな生活秩序と結びつく
 - ・社会的な生活事実、生活理想、「個人の生活活動」に注目
2. 1980年代前半の「教育と公共」をめぐる研究動向—日本教育学会「教育をめぐる『参加』研究委員会」の活動から
 - ・1981年7月～1983年6月までの活動の経緯と内容（大田堯会長が研究代表）
 - ・報告書 第1集（1982年3月）
 - はしがき（研究代表 大田堯）
 - (1) 「教育をめぐる『参加』（協力関係）」の研究目的、目標について
 - (2) イギリス教育に於ける「参加」の問題
 - (3) 「教育委員準公選と『教育参加』—中野区の事例を中心として—」
 - (4) フランスにおける教育行政、学校管理運営への「父母参加」
 - (5) スウェーデンの教育における「参加」
 - (6) 自由民権期における地域の教育運動と教育への「参加」の問題
 - (7) 教育審議機関における「参加」の問題—文政審議会の場合
 - ・報告書 第2集（1983年8月）
 - 大田堯研究代表の「まえがき」より
 - (1) 地域および学校における「自治」と「参加」
 - (2) 近代日本の公教育政策と「参加」の問題
 - (3) 教育参加をめぐる国際動向

（2）浅井研究員：公共性のイノベーション—「共通世界」の概念を手がかりに

1. 共通世界の教育
 - ・2020年ユネスコ報告書「私たちの未来をともに再想像する」について
 - ・2050年に向けて、教育の3つの本質的な問い
 - ・私たちの共通世界と共有する未来を形作るための教育を考える

2. コモン・ワールドズ

- 2050年以降の教育のあり方についての7つのビジョナリー宣言
- 「共通世界 (common worlds)」を概念化したテイラーとジウニ

3. 構築的な「コモン・グッド」の教育としてのレッジョ・エミリア

制度とイタリアのレッジョ・エミリア市の幼児教育の、政策（参加）と教育アプローチ (coconstruction) のヴィジョンにおける一貫性

・次回研究会 9月11日（月）13:30～